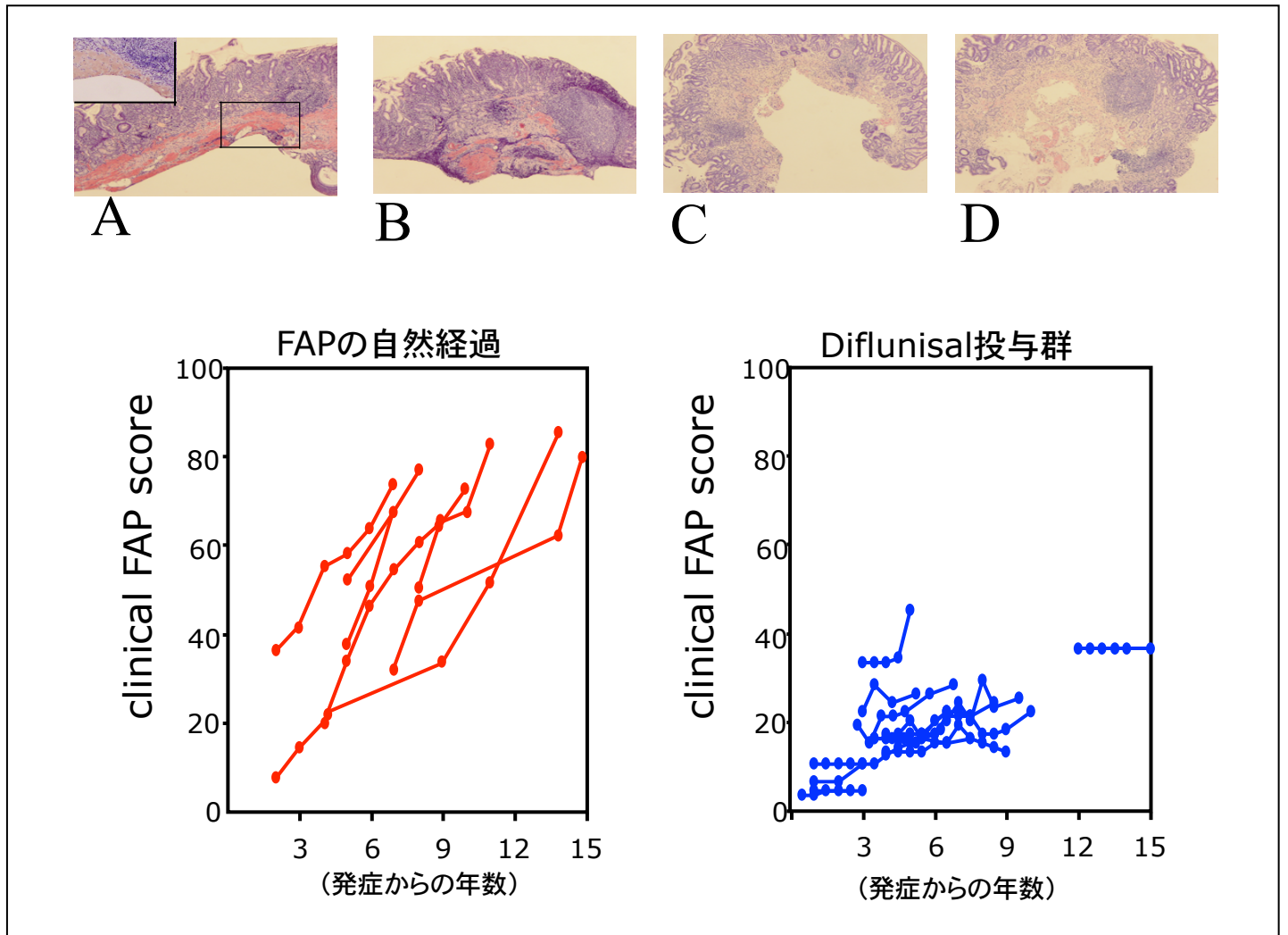


全身性アミロイドーシスに対する新規治療の治療効果

研究分担者：信州大学第三内科 池田修一



解 説

上段：化学療法後のアミロイド退縮所見

図は治療後にM蛋白が消失し血液学的完全寛解に至った患者の胃粘膜生検組織像を示す。治療前には粘膜下層・粘膜筋板・血管周囲に高度のALアミロイドの沈着が認められたが(A, B: Congo red染色)、治療後2年の時点ではそれらは明らかに消退していた(C, D: Congo red染色)。図A中の挿入写真はAL kappaに対する免疫染色の枠内部分における拡大像を示す。

下段：Diflunisalを用いたFAP治療の第II相/III相違臨床試験の結果

FAP患者に対してdiflunisal (Dolobid®) 500 mg / 日 (250 mgを朝夕食後に内服)を投与し、臨床効果(FAP clinical score)を評価。Diflunisal服用患者ではFAPの自然経過に比べ、FAP clinical scoreの悪化を抑制していた。